

株式会社 図研

The Partner for Success

第42期 中間ビジネスレポート

2017年4月1日～2017年9月30日



	当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	前期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
売上高	10,458	9,928	22,199
経常利益	555	185	1,571
親会社株主に帰属する純利益	336	89	1,206
総資産	41,304	38,555	40,530
純資産	28,910	28,075	28,535
1株当たり純資産	1,226円68銭	1,189円83銭	1,208円84銭

(注) 1株当たり純資産は期末発行済株式総数により算出しています。なお、自己株式数は控除しています。(単位:百万円)

INDEX

- 1 連結財務ハイライト
- 2 株主の皆さまへ
- 3 特集「デジタル・ツインを見据えたソリューションを開発中」
- 5 Zuken Innovation World 2017
- 7 四半期連結財務諸表
- 9 Zuken Group in Japan
- 10 インフォメーション

モノづくり環境の変化を的確に見極め、
未来を先取りするシステムや仕組みの提供に努めています。

株主の皆さまには平素のご厚情に、心より御礼申し上げます。
第42期中間ビジネスレポートをお届けするにあたり、業績および業務活動に関して、ご報告いたします。

業績について

当中間期は、日本や欧米でゆるやかな景気回復が継続したものの、アジアにおける景気減速懸念や米国の政策動向などから、総じて先行き不透明な状況で推移しました。このような中であって、当中間期の売上高は、104億5千8百万円(前年同期比5.3%増)と前年同期を上回りました。これは、ネットワークセキュリティ関連製品を中心にITソリューションの売上が堅調に推移したことに加えて、主に欧米でワイヤハーネスの設計システムである『E3.series』が順調に販売を伸ばすなど、回路設計・ICソリューションの売上が前年同期を上回ったことによるものです。
利益面につきましては、売上高が伸長したことから、経常利益が5億5千5百万円(前年同期比199.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億3千6百万円(前年同期比276.9%増)と、大幅な増益となりました。

今後の取り組みについて

当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクスや自動車関連・産業機器製造業では、IoT(モノのインターネット)などを活用した新たな手法を導入し、電気、機械、ソフトウェア、通信などの技術者が部門を超えた相互理解と技術の融合により、画期的な製品づくりに取り組むことが求められています。同時に、設計、製造、保守に至る製品ライフサイクル全般を最適化する

ことで、グローバルな競争力強化を目指しています。
そこで当社グループでは、電気電子設計データの共通管理プラットフォームである『DS-2』の機能拡張を図るとともに、設計・検証システムへのAI(人工知能)活用なども推進し、画期的な製品開発と製品ライフサイクルの最適化のための、未来を先取りするシステムの開発を推進しています。今後も当社グループでは、モノづくり環境の劇的な変化にいち早く、的確に適合し、世界中のモノづくり企業を支援し、企業価値の向上に努めていきます。株主の皆さまには今後
も一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
金子 真人



激変するクルマづくり。

デジタル・ツインを見据えたソリューションを開発中。

夢物語が数年で現実に 激変の時代を迎えた自動車業界

近年、自動車を取り巻く環境は、激変しています。電気自動車
が普及に向けて急速に注目度を増し、IT業界から自動運転分野
への参入が活発になり、航空業界からは自動車と飛行機が融
合する未来図が描かれる時代です。排気ガスを伴うエンジンの
代わりに電動モーターが動力源になることや、所有するよりも
共有する(シェアリング)ことへの市場の変化は、地球にやさしい
乗り物として、次世代のモビリティ社会が求められている証で
もあります。

ほんの数年前には夢物語と思われていた社会の実現が、そ
う遠くない時代になりました。手もとの携帯端末で予約を入れ
ると、指定した時間に、公共交通機関のひとつとして地域住民と
シェアリングしている自動運転車が家の前に到着。乗り込むと
目的地に向かって自動で走り出し、道路が混んでいたら鉄道車
両と合体してレール上を走行したり、道がない場所へは空を飛
んで移動したり。こうしたSFを超えた世界を現実にするための
研究開発に、自動車メーカーをはじめとする世界中の自動車関
連企業が真剣に取り組んでいるのです。

MBSEの導入やデジタル・ツインを活用した ビジネスのデジタル化など、 次々に進化するモノづくりの世界

この状況を目の当たりにできるのが、米国シリコンバレーで
す。世界中の自動車関連企業で開発に携わってきた電気・電子
や機械、ソフトウェアの技術者はもとより、AI、IoT、ビッグデー
タ、モバイル、通信、航空力学、インフラ整備などを専門とする
技術者が、従来からある自動車の概念を超えた次世代モビリ

ティという新しいモノづくりに取り組んでいます。

そこで導入されているのが、MBSE(モデル・ベースド・システ
ムズ・エンジニアリング)という手法。これは、システムの実現を
成功させるために、複数の専門分野の関係者が共通に理解で
きる言語(モデル)を使って、技術分野に依存せずに仕事を進め
る手段です。

さらに、こうして企画した製品や設備・サービスの質やビジネ
ス効率を継続的に高めるために注目されているのが、「デジタ
ル・ツイン」です。これはリアルワールド(現実世界)に実在する

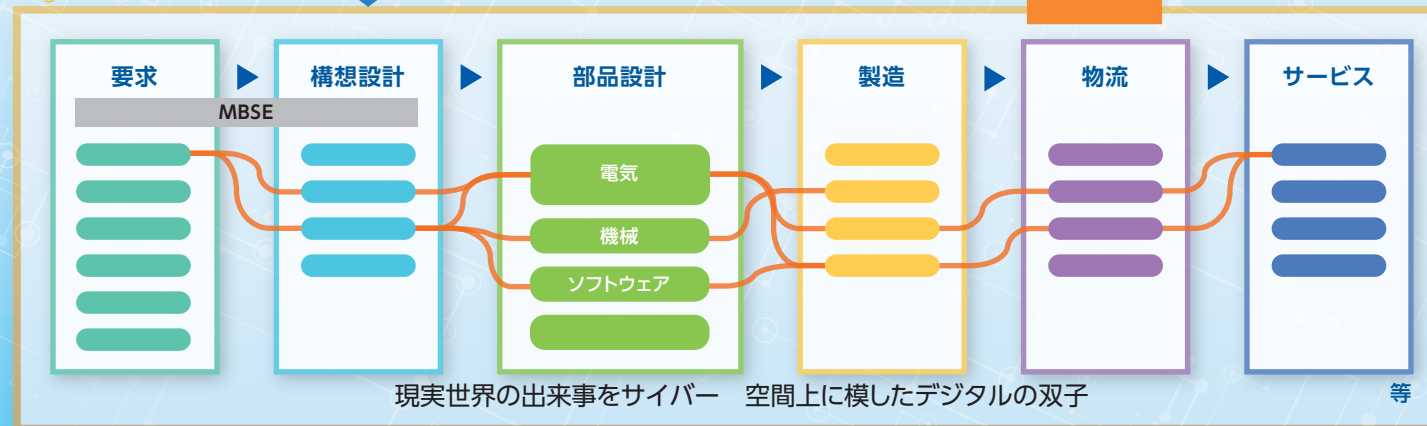
ものとまったく同じ情報を、“現実世界の双子”としてデジタル
ワールド(サイバー空間のコンピュータ上)でも保有するという
考え方。たとえば、物理的な機器などから収集した計測データ
をもとにシミュレーションを実施した結果を現実世界にフィー
ドバックすることで、より効率良く製品を生産したり、製品自体
の動作を動的に改善したりすることが可能になります。「デジタ
ル・ツイン」は、世界中の製造業で重要な取り組みとして、製品
開発だけに留まらず、企業経営の判断や物流、マーケティング
などの分野にも広がりがつつあります。

世界中の製造業が目指す デジタル・ツインのイメージ

Real World



Digital World



最適なソリューションの提供により モノづくり新時代を支援

「デジタル・ツイン」を実現するためには、企画から開発・製
造、サービスに至るあらゆるプロセスの情報が有機的につな
がり、現実社会で起こることを即座に分析したり制御できるこ
とが必要になります。

そのために図研は、ワイヤハーネス設計領域の2大製品であ
る『E3.series』と『Cabling Designer series』の統合を順次
進め、それぞれが培ってきた利点を最大限に活かせるようにす
るとともに、現実の事象分析や制御に不可欠な製品の電気・電
子設計情報を『DS-E3』で一元管理し、モビリティビジネスのデ
ジタル化を支援するための開発を推進しています。

また、こうした激変は、モビリティの世界に限ったことではあ
りません。宇宙、航空、鉄道、農業、医療などの領域でも、着実に
広がっています。そこで図研グループでは、幅広い次世代のモ
ノづくりを見据えて最適なソリューションが提供できるよう、新
たな仕組みづくりや新製品開発などを積極的に進めています。

全世界7カ国での開催の最後を締めくくる、最新モノづくり情報発信のイベントは大盛況。



受付の様子



エクスペリエンスの様子



アカデミックセッションにおける
静岡大学浅井教授の講演



初日に講演する早乙女A&M事業部長



ホワイエに設置した
[Zuken Innovation World 2017]
のシンボルパネル



EDA事業部長飯屋常務は2日目に講演



ホワイエ・セッション
の案内



講演する図研ドイツの
Reinhold Blank



パーティーで挨拶する勝部副社長



初の試みホワイエ・セッション也大盛況



多くの方に
足を運んでいただいた
展示ブース

お客さまの事例発表など、2日間で計67のセッションに、1,400名を超えるお客さまがご来場

「Zuken Innovation World 2017」は、本年4月にアメリカで幕を開け、5月にドイツ、6月にはフランス、イタリアとスイス、そして9月にイギリスで開催。最後を飾るのが、横浜みなとみらい地区のホテルで10月19日と20日に開催された、通算で25回目となる「Zuken Innovation World YOKO-HAMA」でした。

海外からはダイムラー社など5社、国内11社のお客さまによる事例発表をはじめ、図研の開発計画の紹介、パートナー企

業からの発表などに、悪天候のなか、2日間合計で1,400名を超えるお客さまのご来場をいただきました。

4つの会場で開催された44のセッションに加え、システムに実際に触れていただくエクスペリエンス・セミナーが2日間で12セッション、また、初めての試みとして、ホワイエでも昼食時や休憩時間を利用し2日間計11のショート・セッションを実施いたしました。

四半世紀の歴史を積み重ねた図研のプライベート・フォーラムは、IoT(モノのインターネット)時代の最先端のモノづくりを実現するための情報収集の場であるとともに、懇親パーティーも含めて、世界のモノづくりのリーダー同士の有益なコミュニケーションの場として定着しています。

主なプログラム ※敬称略・講演順

事例をご紹介いただいたお客さま

海外

- Daimler AG, ダイムラートラック
- Weidmüller Interface GmbH & Co. KG ●ABB Switzerland Ltd
- Neusoft Corporation ●Texas Instruments Inc.

国内

- パロマ ●明電舎 ●富士機械製造 ●パナソニック
- 日立製作所 ●キャノン・コンポーネンツ ●デンソー
- 日立オートモティブシステムズ ●ユー・エム・シー・エレクトロニクス
- 村田製作所 ●アズビル

モノづくりのトレンドをご講演いただいたお客さま

- アラスジャパン ●フォーマルハウト・テクノ・ソリューションズ
- 筑波大学 ●インテル

アカデミックセッション

- 静岡大学 浅井秀樹教授

ZUKEN
innovation
WORLD

最新の設計・製造技術、インフラ構築に関連する
新製品やソリューション紹介に加え、
国内外のお客さまによる
貴重な事例発表も行っています。

開催日 2017年10月19日ー10月20日
会場 横浜ベイホテル東急
来場者数 約1,400名

 <https://www.innovation-world.info/ziw2017/>

四半期連結財務諸表

(単位:千円)

四半期連結貸借対照表

資産の部			
	当第2四半期 2017年9月30日現在	前第2四半期 2016年9月30日現在	前期 2017年3月31日現在
流動資産	29,802,680	27,058,334	29,000,814
現金及び預金	16,299,173	10,091,422	14,253,644
受取手形及び売掛金	3,607,179	3,626,022	5,195,460
有価証券	6,700,000	10,461,481	6,700,000
商品及び製品	285,106	261,178	285,834
仕掛品	236,681	258,868	54,826
原材料及び貯蔵品	5,143	3,638	2,809
その他	2,697,478	2,382,114	2,531,561
貸倒引当金	△28,082	△26,391	△23,323
固定資産	11,501,786	11,497,265	11,529,879
有形固定資産	6,359,091	6,329,849	6,379,512
建物及び構築物(純額)	2,892,043	2,956,982	2,954,451
土地	3,009,821	3,009,821	3,009,821
その他(純額)	457,226	363,046	415,239
無形固定資産	1,485,840	1,560,736	1,530,127
のれん	751,304	836,936	790,754
その他	734,535	723,799	739,373
投資その他の資産	3,656,854	3,606,679	3,620,238
資産合計	41,304,466	38,555,600	40,530,693

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

負債の部			
	当第2四半期 2017年9月30日現在	前第2四半期 2016年9月30日現在	前期 2017年3月31日現在
流動負債	8,502,913	7,424,853	8,236,184
買掛金	539,739	494,937	823,903
未払法人税等	241,794	196,928	250,629
前受金	5,365,864	4,703,375	4,759,402
賞与引当金	777,136	759,300	793,761
役員賞与引当金	—	—	38,400
事業整理損失引当金	1,580	1,411	1,518
その他の引当金	8,537	8,676	9,047
その他	1,568,260	1,260,223	1,559,521
固定負債	3,890,563	3,055,424	3,758,678
退職給付に係る負債	3,631,015	2,836,042	3,506,552
その他	259,547	219,382	252,125
負債合計	12,393,476	10,480,278	11,994,863
純資産の部			
株主資本	28,493,370	27,505,024	28,388,676
資本金	10,117,065	10,117,065	10,117,065
資本剰余金	8,658,457	8,657,736	8,657,736
利益剰余金	9,733,434	8,744,910	9,629,044
自己株式	△15,587	△14,688	△15,169
その他の包括利益累計額	27,122	159,657	△282,628
その他有価証券評価差額金	882,437	630,331	851,340
為替換算調整勘定	155,756	△170,080	△32,391
退職給付に係る調整累計額	△1,011,071	△300,593	△1,101,576
非支配株主持分	390,497	410,640	429,781
純資産合計	28,910,989	28,075,321	28,535,829
負債純資産合計	41,304,466	38,555,600	40,530,693

四半期連結損益計算書の要旨

	当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	前期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
売上高	10,458,887	9,928,196	22,199,168
売上原価	2,780,677	2,593,751	6,434,018
売上総利益	7,678,209	7,334,445	15,765,150
販売費及び一般管理費	7,188,461	7,025,238	14,168,911
営業利益	489,748	309,207	1,596,238
営業外収益	70,181	64,064	122,288
営業外費用	4,883	187,840	146,805
経常利益	555,046	185,431	1,571,721
特別利益	1,030	2,704	12,089
特別損失	1,829	58,113	151,065
税金等調整前四半期 (当期)純利益	554,247	130,022	1,432,745
法人税、住民税及び事業税	229,308	126,810	345,986
法人税等調整額	△7,167	△40,755	△92,993
法人税等合計	222,141	86,055	252,993
四半期(当期)純利益	332,106	43,967	1,179,751
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純損失(△)	△4,788	△45,427	△26,285
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	336,895	89,395	1,206,037

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

	当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	前期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,378,457	1,780,144	2,586,712
投資活動による キャッシュ・フロー	△380,908	△329,071	△595,665
財務活動による キャッシュ・フロー	△266,762	△240,056	△482,016
現金及び 現金同等物に係る 換算差額	210,351	△309,950	△134,146
現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)	1,941,138	901,065	1,374,884
現金及び 現金同等物の 期首残高	14,046,756	12,671,871	12,671,871
現金及び 現金同等物の 四半期末(期末)残高	15,987,894	13,572,936	14,046,756

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

モノづくりのさまざまな分野で活躍する図研グループ

図研には、各専門分野において、先端的なITソリューションの開発やシステム構築、人的サービスの提供など、製造業を幅広く支えるグループ企業があります。今回は、国内グループ各社のビジネスの概要についてご紹介します。

図研ネットウェイブ



IoT、ビッグデータ、AI、サイバーセキュリティ、5G(第五世代移動通信システム)関連の最先端分野でITテクノロジーとサービスを提供しています。最近では、独自アルゴリズムをGPU(画像処理のプロセッサ)上で高速処理する世界初の複数同時顔認証システムを、SNSや地理情報システムなどと連動させ、テロや災害から駅や空港などの施設や街を守るSA(状況認識)システムの提供も開始いたしました。

図研プリサイト



中核製品である[Visual BOM]は、BOM*と3Dの融合、BOMと生産システムとの連携に成功し、国内PLMマーケットにおいて、圧倒的なポジションを獲得しています。一方、新事業に向けて、企業内に散在する専門知をビッグデータと位置づけ、AI技術(深層学習)を用いて重要情報を探り当てる、新たな製品を開発しており、2018年のリリースを計画しています。

※BOM(英:Bill Of Materials)とは、マテリアル(部品、素材、原料など)の数量的な関係を示した一覧表のこと。

図研エルミック



通信プロトコル技術のプロフェッショナル企業として、セキュリティ分野では監視カメラ向け製品に加え、携帯端末で映像を見るためのビューワー開発環境の提供を開始しました。モノづくりの生産現場の安全をIoTで実現する機能安全通信ソフトウェア開発環境の提供も開始しました。IoTの広がりが必要の高まる通信プロトコル技術を、多様なパッケージ製品として提供しています。

図研テック



技術支援や人材サービスをビジネスの中核とする当社では、得意とする熱・ノイズ対策分野において、技術者教育を含めたお客さまのニーズが増加傾向にあります。今後は、豊富な開発経験と設計ノウハウに加え、最新技術の「モデルベースデザイン」や「VR検証技術」を取り入れ、お客さまが最先端のモノづくりの実現を可能とする、「確かな専門技術」と「信頼されるサービス」の提供を推進します。

会社情報 (2017年9月30日現在)

社名	株式会社図研 ZUKEN Inc.	▶ 役員		▶ 関係会社	
設立	1976(昭和51)年12月17日	代表取締役社長	金子 真人	図研テック株式会社	
資本金	101億1,706万5千円	代表取締役副社長	勝部 迅也	図研ネットウェイブ株式会社	
株式市場	東京証券取引所第一部	常務取締役	仮屋 和浩	図研エルミック株式会社	
従業員数	409名 連結1,220名	常務取締役	相馬 肃一	株式会社図研プリサイト	
平均年齢	42.3歳	取締役	大澤 岳夫	株式会社ダイバーシंक	
URL	http://www.zuken.co.jp/	取締役	早乙女 幸一	Zuken GmbH ほか8社	
		取締役※	佐野 高志	Zuken USA Inc.	
		取締役※	荒井 洋一	Zuken Korea Inc.	
		監査役(常勤)	和田 扶佐夫	Zuken Singapore Pte. Ltd.	
		監査役※	尾崎 靖	Zuken Taiwan Inc.	
		監査役※	半田 高史	Zuken India Private Limited	
		※は社外取締役および社外監査役です。			図研上海技術開発有限公司



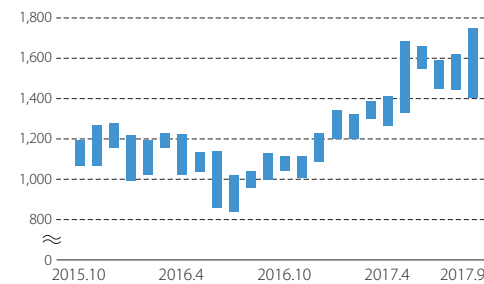
本社・中央研究所

株主情報 (2017年9月30日現在)

▶ 株式の状況

発行可能株式総数	86,525,700株
発行済株式総数	23,267,169株
株主数	8,170名

▶ 株価推移



▶ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
金子真人	4,500	19.35
金子真人ホールディングス株式会社	3,240	13.93
GOLDMAN, SACHS& CO. REG	1,225	5.27
BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS PACIFIC FUND	886	3.81
日本生命保険相互会社	723	3.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	691	2.97
和田扶佐夫	690	2.97
金子みね子	580	2.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	509	2.18
JP MORGAN CHASE BANK 380634	379	1.63

注: 持株比率は自己株式(16,987株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
公告方法	電子公告 (当社ホームページ http://www.zuken.co.jp/e-koukoku/) なお、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
1単元の株式の数	100株
証券コード	6947
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	 0120-232-711
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	 0120-782-031

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

口座をお持ちの証券会社にお申出ください。なお、特別
口座で株式が管理されている株主の方は、口座管理機関
である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。



株式会社 **図研** <http://www.zuken.co.jp/>

本社・中央研究所	〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1
センター南ビル	〒224-8580 横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-11
新横浜ビル	〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル
名古屋支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20 HF桜通ビルディング

TEL: 045-942-1511(代)
TEL: 045-942-1300(代)
TEL: 045-473-6868(代)
TEL: 06-6343-1141(代)
TEL: 052-950-3671(代)



この報告書は、環境に優しい植物油系インキを使用して印刷しています。